

## 国土交通省政策会議分科会（第7回）議事要旨

1. 日時：平成22年4月8日（金）8時00分～9時10分
2. 場所：衆議院第一議員会館第1会議室
3. 国交省出席者：佐藤河川局長、金井道路局長ほか
4. 議題：平成22年度予算執行における所管事項と主な政策課題等について  
（河川局、道路局）

### 5. 議事要旨

#### （1）配付資料に沿って説明

#### （2）出席議員からの主な意見

- ・ ダムの耐用年数はどれくらいか。耐用年数的に厳しく、建て替えを必要とするダムは、検証の対象・対象外のどちらに該当するのか。
- ・ 地元で河川の上に道路をつくれないうちを考えている場所がある。以前、国に河川の上に構造物をつくれないうちをもちかけた時は難色を示されたが、今でもそうか。解決策はないか。
- ・ 再生可能エネルギーとして流水発電が話題になっている。日本の川は、流量も多いが速度も速いため、これを利用すれば発電量が見込まれる。川に流水発電の装置をつくることについて、河川管理者から見た問題点はないか。
- ・ 豪雨対策や水資源問題の対策として、日本も雨をコントロールする技術を考えなければならない。中国では北京オリンピック開催時などに人工的に降雨を促している。所管はどこなのかは分からないが、国土交通省としても無視できない技術ではないか。
- ・ 補助ダムについては、大臣が各関係都道府県の知事に検証の要請をしたところ。大臣は自治体の首長を尊重する考えから新内海ダムを含む5ダムの見切り発車を許したと思うが、治水の国負担分約5割の他に交付税措置も入るのだから、検証は、自治体に任せるのではなく国がきちんとすべき。昨年度の資料を見ると4月1日の交付申請に対し、同日付けで交付決定をしているが、今年度も同様か。補助金適正化法に基づいてどのような審査をしているのか。
- ・ 馬淵副大臣が以前、道路の事業評価は3便益だけではなく、いのちの道などの要素も踏まえ検討したいという話をされていたが、事業評価は3便益

以外も含めて、客観性を持たせた評価とすべき。事業評価の基準の現在の検討状況、いつ頃までにまとまるかの見通しを教えてください。

- ・ 22年度の予算では、新規事業は原則着工しないということになったが、23年度に向けて、このような状況が続くと地方はもたない。どのような方針で臨まれるのか。ミッシングリンクのB/Cについては、今の手法を前提にすると、地方の不均衡は解消されない。
- ・ 自転車事故が10年間で4.5倍、自転車乗用中の死者の約65%が65歳以上とマイナス面だけがとり上げられているが、環境や健康にとってプラスであり、もっと自転車道をつくるとかそういった方向性で進めていただきたい。
- ・ 高速道路が無料化になった場合の償還はどうなるのか。
- ・ ミッシングリンクについて、フル規格ではなく、現道を使った形でどのようにつなげたら早く効率的につなげるのかという計画を出す予定はあるのか。
- ・ 一律料金化について様々な報道がされているが、誰がどういった議論をしており、現在、どういった状況なのか。
- ・ 事業評価は3便益だけでなく、客観的な基準とすべき。将来に向けてどういった客観的な見直しを考えているのか。

### (3) 出席議員からの発言を受けての国土交通省の回答

- ・ 建設から相当年数が経っているダムもあるし、機能増強を図っているものもある。それらは新たにダムを建設するものではなく、またダム湖の面積を広げるものでもないため、大臣の指示を受けて検証の除外対象としている。
- ・ 川に蓋をすることについては、基本的に環境の問題と治水上の問題（河道が詰まる等の危険性）が指摘されているが、具体的にお話をいただければ、地域のご要請と河川環境に照らしてどうかについて個別に対応したい。
- ・ 近年、小水力発電のシステム開発が進んでいる。我々の立場からも、審査の簡素化、マニュアル等の整備を進めているところ。また、砂防ダムでも小水力発電を促すなど工夫しているところ。
- ・ 雨のコントロールについては、過去、東京都の小河内ダムにおいて、ヨウ化銀を雲の中に蒔き降雨を促そうとした実績があるが、うまくいかなかった。国際機関では、台風の影響を軽減しようとする様々な検討がなされていると聞いている。河川局では直接実施していない。
- ・ 今年度12月以降本体着工が予定されていた5ダムについては、すべてのダ

ムにおいて3月までに各県議会の議決を頂戴している。そのような各県の最終判断を受け、計画どおりに事業を進めるための予算を配分した。交付決定にあたっては、事前のヒアリング等により、補助事業の内容や費用（新内海ダムの場合32億6300万円（国費15億5300万円））の内訳を審査している。日付については資料が手持ちにないので後ほど確認する。

- ・ 昨年度の18事業の際には、3要素以外の便益も試行的に運用をさせていただいた。その際、地域から3便益以外の要素を提案していただき、他の要素を入れた評価をやらせていただいた。定量化が難しいものもあるが、地域の意見を聞きつつ、今後も検討を行ってまいりたい。
- ・ 街の中を自転車で安全に走行できるというようなことも含め、検討してまいりたい。
- ・ 本年度は社会実験であり、料金の減収分は国費で補填し、償還計画に影響はない。今後検討することとなる。
- ・ 大臣から年内までに高速道路の整備のあり方の答えを出すとご指示をいただいております、その中で検討してまいりたい。
- ・ 近々、大臣から考え方を公表していただくことで最終的な調整を進めている。
- ・ 経済学的に把握できるものと地域の実情からでてくるものを分けて把握しなければならないと考えている。ヨーロッパのように様々な要素を踏まえた基準も参考に検討してまいりたい。

～以上～